

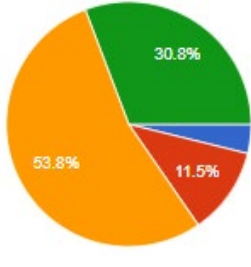
令和4年度 チャレンジICT アンケート集計結果

- 実施日 令和4年9月27日(火)
- 授業者：都城市立高崎中学校 堤 達哉
- 校種：中学校 学年：第2学年
- 教科：社会 単元：「近畿地方」～都市・農村の変化と人々の暮らし～
- 目標

- ・ 縮尺、方位、等高線、地図記号など地形図の読み取り方を身に付け、資料から近畿地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえることができる。(知識・技能)
- ・ 近畿地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で特に伝統的な文化と歴史的背景に関心を持ち、地元である高崎町や京都の調査に対する関心を高め、意欲的に情報を収集し、地域の特色を意欲的に追求することができる。(学びに向かう姿勢)

アンケート集計期間 令和4年10月17日～11月17日まで

アンケート回答者割合

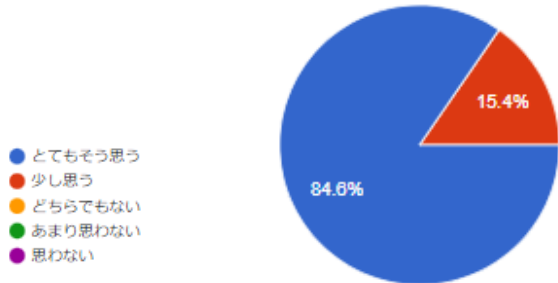


YouTube動画視聴回数
(令和4年11月17日まで)
193回

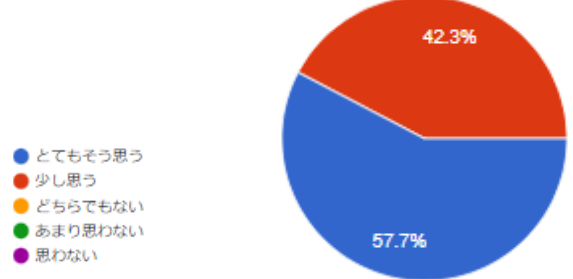


宮崎県教育研修センター
Miyazaki Prefectural Center

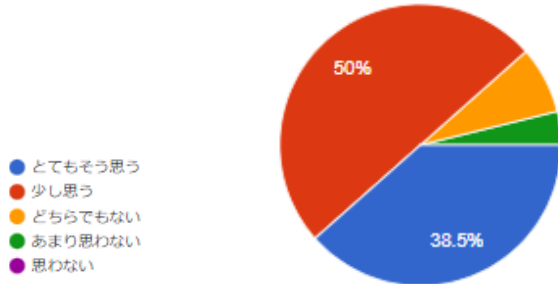
① (ICT活用に関して) 児童・生徒の**意欲**を高めるために効果的な活用であったか。



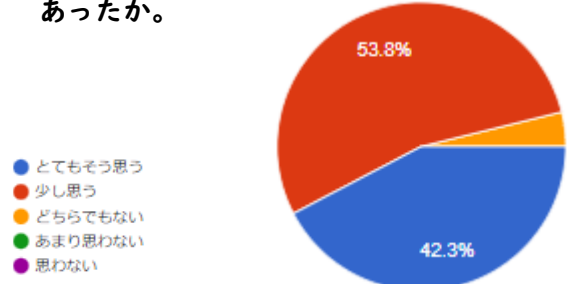
② (ICT活用に関して) 児童・生徒の**理解**を高めるために効果的な活用であったか。



③ (ICT活用に関して) 児童・生徒の**表現**や**技能**を高めるために効果的な活用であったか。



④ (ICT活用に関して) 児童・生徒の**思考**を広めたり深めたりするために効果的な活用であったか。



○ 今回の授業を見られて、ICTの「効果的な活用」についてご意見・ご感想等をご記入ください。

生徒一人ひとりがじっくりと地図を読み取ったり、意見を披露する場面の設定など、生徒が活動しやすい内容だったと思います。

地図記号等をICTで提示することは限られた時間の中で効率良く時間短縮できると思った。地図を端末で実際に手元で操作させることも社会科ならではの有効な活用法だと感じた。

様々な地図を比較検討したり、教科書の記述などを、自分で調べることができていたので、教員が一方向的に話すよりも、理解が深まったのではないかと思います。

私は部分的な面でしか活用ができていないが、全体的に活用できていて是非参考にしたいと思いました。

高等学校の工業(土木)でも測量という科目があり、地図記号を読み取る力が必須であるため、導入部分が大変参考になりました。

生徒が主体的に思考し、学習している様子が見られました。

大変工夫がされていたので、参考にしたいと思います。

授業の導入で使っていたフラッシュ教材はテンポもよく、基本的な内容の定着には効果的だと思います。クイズ形式にして班や個人で競わせても面白そうです。お勧めクイズのアプリは「Kahoot it」です→<https://kahoot.com/ja/>
地図アプリを使って京都の特徴をつかませるところはとても良かったです。自由に拡大、縮小ができ生徒も熱心に活動していました。各版の意見を集約するところもICTをうまく活用していると思いました。

①導入のフラッシュカードのような活用は、ふりかえりやテンポ良い授業をするために有効であり、生徒の意欲が高まっていると感じました。

②資料配付におけるデジタルの活用は、生徒が拡大・縮小したりすることで正確な読取と個別最適化が図られるため、理解の高まりに効果的だと思います。

③ICT活用により②と同様の意味で技能の高まりに効果的であったと思います。表現について「表現力」を教師がどう定義するのかによって授業の見取り方が違い、今回の授業の目標には【思・判・表】は設定されてませんので、意見は控えさせていただきます。ただ、「効果的な活用」を推進する上で、「生徒の〇〇力を育成するために、ICTを…活用して～する活動を行う」など、授業者がどんな力を伸ばすのか明確にして授業を行ったり、生徒の学習活動を計画したりすることが大切だと思っております。この単元の中で、そこがどう設定されているか興味深いです。

④「広がり」の視点だと、他の生徒の意見を共有することで効果的だったと思います。「深める」ためには、授業者による「発問」が最も効果的であり、その発問後の思考する時間を確保するという点でICTは効果的だと感じています。

資料提示としての活用・クイズとしての活用・グループアースを使って探求としての活動・意見発表のための活用など、さまざまに活用されていて勉強になりました。

フラッシュカード的な活用法やGoogleスライドを用いたまとめなど、資料提示時や資料の同時編集時における時間短縮につながるというICTの利点を効果的に活用されており、自身の授業でも即、取り入れていきたいと思いました。

視点①地形図について、紙媒体から電子データになることで、デジタル世代の生徒たちには、親しみやすく意欲を喚起するものになっていることが映像から伝わってきました。

視点②ICT活用の基盤となる、本時のまとめに至る学習過程について、まとめ段階の動画の生徒の様子から次のことを考えました。(A)地形図から読み取ることができる情報は、「どうなっているのか？」に対するこたえとしての「見通しや方向が分かりやすいこと」。(B)そして、「なぜそうなっているのか？」といった更なる問いのこたえとして「歴史(古都)の影響」がある。その部分を整理して構成すると良いのではないかと。※限られた時間の動画を見ての意見なので、的外れでしたら申し訳ありません。

視点④授業動画の途中で、「なぜそうなっているのか？」にこたえようとして、歴史的分野の教科書を開いている生徒が見られた。普段から、授業において思考することを習慣化していることが伝わってきました。ICTを有効に活用し、協働的な学びを促進している成果にも見えました。多くの参考となる点を授業視聴から得ることができました。堤達哉先生ありがとうございました。

グーグルマップの利点を最大限に授業に活用されていると感じました。

生徒が、端末で調べつつ、これまで学習した内容を教科書で確認しているところが、紙とデジタルを両立していると感じました。

ICT機器を活用して、近畿地方と身近な高崎町の地形図を比較することで、地形図の理解が深まったすばらしい授業だと思えます。さらに、高崎町の地形図を見ながら実際に町を歩き、距離や高低差を体感してから、近畿地方の地形図をみると実際の地形を想像する力が身につくかもしれませんね。今後も、ICT機器を活用して思考力を深める授業にチャレンジしてください。

全体感想

teamsでの課題配布やGoogle slideでの共同編集など、日頃からICT活用を推進されている様子が伺えました。よく「ICTが目的になってはいけない」と言われますが、今は児童生徒のICT使用頻度を高めて、基本操作の向上を目指してもいいのではないかと考えています。

個人的実践

ここからは「もし私なら～」という視点で書きます。

①地図記号や地図の縮尺を求める場面

ここではkahoot!というソフトを使ってクイズ形式で学習及び習熟度の回収を行います。<https://kahoot.it> こちらは生徒画面で、教師はテレビに参加コードを写して生徒に参加させます。クイズ形式で地図記号の問題をや縮尺の問題を出し、回答結果は最後にまとめる事ができます。

②班ごとに意見をまとめる場面

ここではPadletというソフトを使います。<https://ja.padlet.com> Google earthでの散策を通して気づいたことや感想などをPadletに書き込んでいきます。個人の発信に対していいねや返信などができます。リアルタイムで意見交換ができます。またSNSの特性を持っているので、メディアリテラシーの面でも学習効果が考えられます。

③自分の住む地域や京都の地形についての気づき

ここではゼンリンが提供しているマナップを使います。

<https://www.zenrin.co.jp/product/category/education/manap/es/index.html>

例えばスタートとゴールの位置を共有し、それぞれがプログラミングをする中で「垂直水平な道が多い」「神社や寺院がたくさんあるな」という気づきを通して、今回の授業のまとめにある「歴史的な伝統や基盤の目」に迫るという手法です。

上記内容は1時間にまとめる事は出来ないで、単元の中で必要に応じて活用していけたらと思います。貴重な授業実践ありがとうございました。

生徒の興味・関心を引き付ける授業になっていたと思います。

地形図だけではなく、航空図を見せることで、京都の街並みを具体的にイメージとして捉えることが出来るというメリットがあると思います。

Google Earthを効果的に使うことによって、生徒が意欲的に学ぶことのできた授業になっていたと思う。あくまでもICT機器を使うことを目的としているのではなく、ICT機器を活用した学びを深めることを意識されていた。自分自身も活用できるよう、努力したいと感じた。

今後、自分の授業にかかしていきたいと思った。

- ① 社会科において実物（本物）は魅力ある教材と考えた時、Google earthを使うことで疑似体験ができる。したがって、学習者の興味・関心を引き出すことはできていたと思います。一方で、そのタイミングに検証の余地があるように考えています。地図記号の復習の直後に、Google earthの学習活動をするとう学習者の理解度を上げられたのではないかとというのが私の代案です。
- ② 縮尺については必ず学習しなければならない内容である。生徒の中には苦手にされている方も多しことは想像できます。堤先生の配慮を垣間見ます。私の代案としては、実際にある建物と建物（例えば二条城と京都駅等）にしぼって、距離感や方角をGoogle earthを使って体感させると、計算方法を学習するだけでなく実感を伴う学びにつながるのではないかと考えます。その後で実測の計算を授業者主導で教える形はいかがでしょうか。

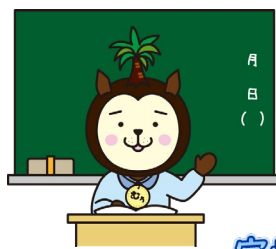
全体、個別、集団での活用が図られていた。

生徒の興味関心を引き出し、課題意識をもって調べようとする姿がみられてよかった。学んだことから、生徒と一緒にまどめを考えることも大事だと感じました。ICTを使用する中で、どのように調べれば課題解決を図ることができるかを、気付かせるまでに時間が必要であり、私自身の学びになった。ありがとうございました。

ICTを活用して、京都の町並みを見ている生徒の関心や意欲がとても高まっていたと感じました。また、高崎町の地図と京都市内の地図を比較させる場面がとても勉強になりました。ICTで両者を比較させる時間を確保し、共通点や違う点を整理することで、生徒自ら京都市内の特徴について更にたくさん意見がでたのではないかと感じました。

各班で考えたことをすぐに全体で共有できた所が良かった。グーグルアースも社会科ならではの便利なツールだと感じた。

(回答されたアンケートをそのまま掲載しております。)



宮崎県教育研修センター
Miyazaki Prefectural Center

○ その他

ナビや地図アプリの向上で私たちの生活はかなり変化したと思います。昔は旅行するとなったら地図雑誌を買ってルートを下調べしたり、電車に乗るなら時刻表を購入して計画を立てたり、結構大変でしたがいまはスマホのナビアプリで目的地にどんな交通手段でいけば良いか教えてくれるし、電車の時間も提案してくれます。地図なんか読めなくても生きていけるわけです。そんな時代に人が身につけるべきスキルは何でしょうか。下調べて使っていた時間は何に使うべきでしょうか。そんな視点もあって良いかもしれません。次の先生のチャレンジも楽しみです。

堤先生の、チャレンジICTに申し込まれる心意気が、何より素晴らしいと感じました。先生の指示や発問が聞き取りやすく生徒が何をすべきか理解して活動していると思いました。貴重な動画を見せていただきありがとうございました。先生のご活躍をお祈りしています。どうかお体をご自愛ください。

板書を見る限り、縮尺の計算等がけっこう多くをしめていた。おそらく復習であろうが、どれくらいの時間を設定されていたのが気になる。本来の「京都」の学習のまどめの際にチャイムが鳴って時間オーバーしていたが、メインの学習内容にかける時間にしわ寄せがいったのなら、残念なことである。また、班ごとの発表があまりにもシンプルすぎて物足りない感じもする。本来はここで深い考察や「ほほうなるほど」といった意見が出てきてほしい。答え方のフォーマットを提示して「答え方」の練習も繰り返し指導していくことも大切ではないか、と思う。ICTの使い方について、とても参考になる授業でありました。提供ありがとうございました。

非常に参考になる授業を提供いただき大変感謝いたします。導入の地図記号は、簡単ですが効果的で他教科でも参考になるものでした。今後も積極的にチャレンジしていただき、他の先生型の参考となる授業を展開していただけると幸いです。ありがとうございました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ① 今回のチャレンジを私は評価しております。堤先生に最もお伝えしたいことは、今回チャレンジされたことを再度検証され、社会科の先生（授業者）としての研鑽をされて欲しい人材であることです。主な検証の柱は「資料を使って対比を起す」「学習者主体の問いにする」「効果的な協議やICTの在り方」「板書」を中心に、授業構想力をあげてくださることを切に望みます。いつでも教頭を介して、連絡してください。
- ② 動画の6:30に「高崎と京都の地図をもとにしたグループ協議」において、男子生徒が『縮尺が違う』と発言しています。上記にある効果的な活用の②で前述した部分に直結する発言です。ダイヤモンドの原石の発言だと思います。これを引き出したのは、授業者の堤先生の力です。だからこそ、この発言を生かした授業展開ができたのではないかと考えています。楽しみです。
- ③ 板書については、少し検討の余地があるように感じています。構造的な板書について、センターホームページで資料を探されたり、周囲の先生方に御相談されたりすることを望みます。これについても教頭を介して、連絡して下さっても結構です。堤先生、お忙しいとは思いますが、健康に留意され、これまで通り子供たちのためにお力をお貸しくださいね。いつかお会いしてお話しできたらいいなと考えています。 久野

この回の授業では、学習課題は、「京都の町並みを地形図から読み取る」ということではないでしょうか。Google earthを見せるなら、高崎と同じもの、異なるものを探し出して、その中から、コンビニの特色を読みとらせてみたいと思いました。また、「本時の目標」が大きすぎたようにも感じられました。

堤先生、授業を提供していただきありがとうございました！大変、勉強になりました！

